

自分にとっての図書館

一般教育科 中村篤博

図書及び図書館に関することで執筆することになったが、あまり読書家ではない自分にとって、この機会がなかったら、図書や図書館について振り返ってみたり、考えたりすることはなかっただろう。

図書館は、大学生になってから、調べ物をしたり、レポートを書いたりする場所としてよく利用していた。同級生と図書館で勉強し、合間に学食にいったり、甘いものを食べたり、どうでもいいような話したりするのが楽しかった。そのうち、ちょっとした空き時間にも図書館を利用するようになり、一人で考えごとをしたり、専門分野と全く違う本をパラパラ読んだりしていた。そうすることで、心のもやもやが軽くなったり、何か考えがひらめいたり、何となく心地よかったし、心が解放される場所であったように思う。また、自分以外にも、レポートや試験勉強に追われている学生をいたるところで見かけ、静けさの中にもエネルギーが満ちていたように思う。

図書館の膨大な数の本を無造作にながめていると、目にとまる本に出くわすことがある。多くの場合、パラパラとみて元に戻すことになるが、自分の興味をひく内容であることがある。この偶然から、新しい発見や知識を与えてもらえるような気になれたし、好奇心がわいてくる。このように、思いがけず興味のひく本を見つけると、視野が広がるように感じることもあったし、非常に漠然としているものの、研究について夢を持つこともできたように思う。

最近、書籍の電子化が進みつつある。しかし、いくら携帯電話の機能やモバイルパソコンが普及しても、紙媒体である本を読んでいる人はまだまだ多く見かける。電子化された辞書や百科事典などは、かなり普及しており、私が学生であった頃とは、大きく違っている。目的のものを手早く検索することができ、コンパクトで持ち運びも楽にできるというのは、非常に利便性が高い。しかし、その一方、自分が必要と判断した情報にのみ目をおし、それ以外の必要かも知れない情報を見過ごしてしまう恐れがある。また、自分の興味のある分野の本のみを検索用語で探すことができるため、新しい本との偶然の出会いが少なくなるのかも知れない。もし、紙媒体の本が少なくなっていくとしたら、寂しい気もする。

レポートの調べ物や試験勉強だけでなく、もう少し広い視野で図書館を利用したり本と接したりすると、より豊かな人間性が養われるように思う。